

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	COVERT REVOLT	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：COVERT REVOLT**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番

**比較対照ボール：GOLD REVOLT**

フレアーの幅  インチ

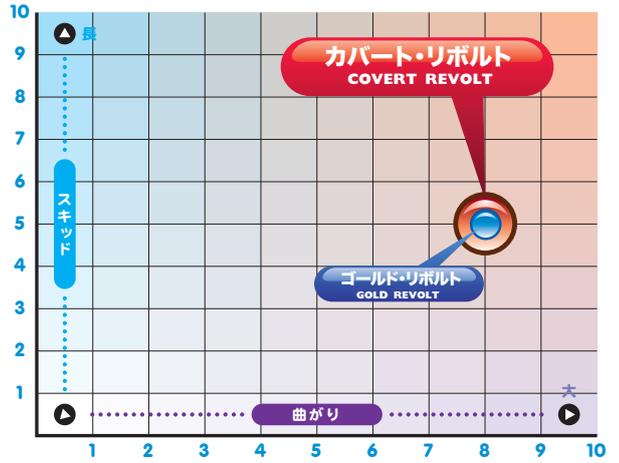
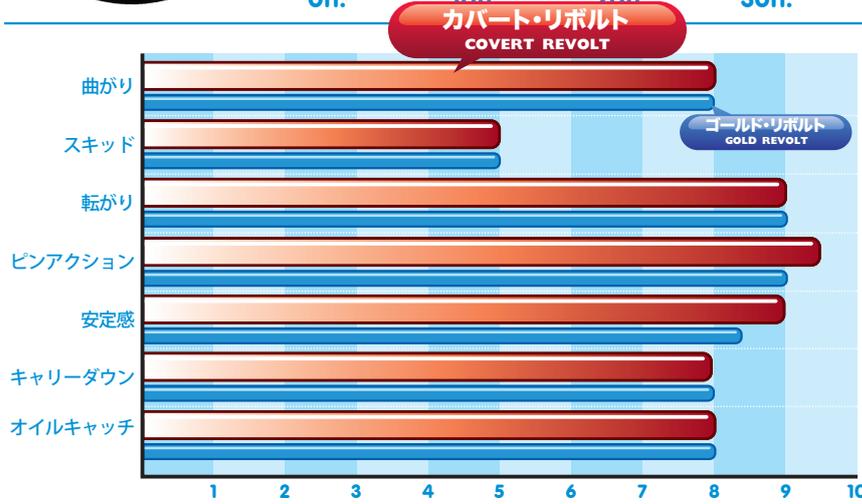
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

2014年2月下旬、再販に再販を重ね近年この売り上げ実績を越えたボールがない、今も伝説として受け継がれ、3年の月日が流れても今尚再販を望まれるボールはないと言っても過言ではありません。プロアマ問わず、多くのボウラーがバックの中に入れていたであろうCOVERT REVOLTが今月、Turmoil HFS Reactive、Vanquish Coreとの組み合わせ。そうCOVERT REVOLTがそのまま配色も含め、当時そのままの性能で数量限定でリメイクします。Mid Laneでの安定したキャッチからピンヒットまで続くContinuous Hook、安定感と共に無二のピンアクションを実現させたCOVERT REVOLTの魅力は多くのボウラーが1個だけではなく、2個3個持つほどその領域の広さと利便性が他社のボールに比べ圧倒的だったと言えます。2014年から歳月が流れようとするこのボールの性能は見劣りするどころか、今でも輝くを放つであろうことは皆さんも十分想像がつくでしょう。

GOLD REVOLTと比較投球してみると「そうそう、この感じ!」という独特な曲がりだしからピンヒットまで当時の記憶が呼び起こされる出来が第一印象でした。このボールは歳月が経とうと今も「まずはこのボールから攻める」メインボール的存在であり、ベンチマークな性能を再認識しました。このボールを投球するとオイルの有無が的確に判断でき、曲りが足りなければJACKAL、スキッド感が足らなければVENOM系やOCTANE系へとシフトチェンジできます。私の場合はこのボールを投球して曲りが少なく感じるようであれば、相応のオイルがあると感じ、迷うことなく一段階オイルに強いボールを投球します。やや曲りが強く感じても、コントロール性能からピンアクションまで期待できるCOVERT REVOLTで中に入るラインを選択し、できるだけ長くこのボールを使うでしょう。

### 特記事項

**間違いなく発売前に完売必至であり、ボウラーはかならずこのチャンスを逃してはいけません。COVERT REVOLTは持っておかなければならないボール。何に変えてもこのボールを手に入れておくべきです。**